

## 4. 総括研究報告書

### 課題 4

# 足病治療の目的“起立、歩行”の支援のための連携 ～リハビリテーションの早期介入～

リハビリテーションの早期介入とは 2 週間以内に立位運動を含むリハビリテーションを開始するものと定義している。

多施設（6 施設）を対象とした遡及的調査すなわち 2012 年 4 月から 2015 年 3 月間に下肢慢性創傷治療目的で調査対象施設\*へ入院した連続症例の内、以下に示す取り込み基準、除外基準を満たす適格患者を対象とした。  
適格患者数は 233 名であった。

早期積極的リハを含む 7 つの因子（感染創傷、DPN、入院前生活自立、入院前創傷治療、足部変形、透析、早期積極的リハ）が抽出され、その中で早期積極的リハのオッズ比が 1.82 で歩行再獲得率を向上させる独立した因子であることが明らかになった。また、対象者を重症虚血肢（CLI）患者に限定した解析においても、オッズ比が 1.70 で早期積極的リハは歩行再獲得率を向上させる独立した因子として抽出されている。

#### 創傷治癒率

早期積極的リハビリを行うと、相反する潰瘍の治療率の低下が心配であったが、早期リハビリ介入しても創傷治癒に影響がないことが明らかになった。

#### 自宅復帰率

歩行再獲得を含む 5 因子が抽出され（糖尿病、COPD、複数創傷、入院前生活自立、歩行再獲得）歩行再獲得がオッズ比 3.57 で自宅復帰率を向上させる独立した因子であることが明らかになった。

この研究は、下肢潰瘍を外来で治療し、早期に歩行させる下肢救済足病学会としては意義な成果である。